

アブラムシの 対策

植物の新らしい芽や梢、葉裏などに群棲して植物の養分を吸うアブラムシは、その種類も非常に多くみられます。

植物に寄生して生育を悪くするとともに、ウィルス病を媒介する害虫です。

植物の健康を保つためにも、しっかりと対策を立てましょう。

被害と防除法

■ 被害と症状

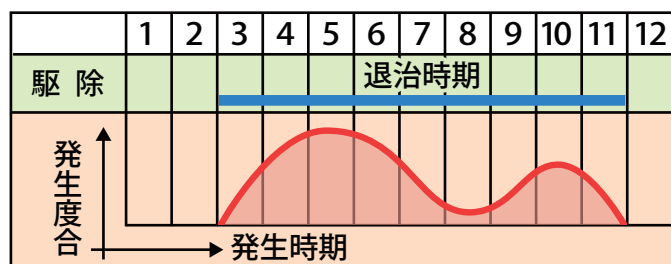
新芽、新梢、新葉、茎や花弁および葉裏など、よく目につく場所に群棲している小さいムシがアブラムシです。

中には、葉を巻いたり、虫コブを作ってその中で棲息する種類もいて、体色も緑色ばかりではなく、赤、桃、黄、白、茶、黒など多色にわたり、体長は1.5mm～3mmくらいのもが多いようです。アブラムシは樹液を吸って害を与え、新葉の展開が不十分になる、茎の伸長が抑えられて生育が悪くなる、花の咲き方がおかしくなるなどの被害を及ぼします。



■ 防除法

植物に寄生するアブラムシの種類は大変多く、一般的には春から秋にかけて寄生します。特に春先の繁殖は著しく、見つけた時はたとえ1匹でも数日後にはびっしりと群棲します。繁殖期にはメスの成虫がメスの幼虫を1日に数匹～十数匹も産む上、幼虫は数日で成虫になるために大発生します。そして、アリに運ばれたり、羽のあるアブラムシは飛んで他の植物へと移り、繁殖しつづけるのです。アブラムシはウィルス病を媒介したり、すす病の原因にもなりますので早めに防除することが大切です。



※注意
病害虫対策は状況や気候により多少違ってきます。また、薬剤は必ず商品の説明をよく読んで記載内容に従ってお使い下さい。

